



CSIの助教の先生と共同研究者の皆さんにインタビュー！ 「ヴィネット調査」ってなに？ ——日本社会の「意識」を測るウェブ調査の可能性



2024年3月、CSIに所属する助教2人を含む共同研究グループ「仕事をめぐる世論」研究会の皆さんが「日本世論調査協会」の公募調査「研究者と日本世論調査協会の共同調査」に採択されました。今回のニュースレターでは、共同研究グループのメンバーの皆さんにお集まりいただき、採択されたテーマ「現代日本社会における仕事をめぐる世論の構造：ヴィネット調査を用いた実験アプローチ」の内容をお伺いします！

◀「仕事をめぐる世論」研究会の皆さん

(左から) 那須蘭太郎さん(東京大学大学院博士課程)、瀬戸健太郎先生(社会学部助教)、池田岳大先生(CSI助教)、渡辺健太郎先生(CSI助教)

このテーマを選んだ背景はどのようなものだったのですか？



瀬戸先生

まず、職業威信(※)をもっと多面的に扱いたいという話から始まりました。職業威信スコアには、実際には性差や年齢、雇用形態など様々な要素が関与しているはずで、今まで一元的に捉えられていた職業威信スコアを見直す必要があるのではないかという話をしていました。



渡辺先生

実態調査ではなく意識や世論の調査ということで、大規模なサンプルによる調査ではなくても調査手法の精度で勝負できるヴィネット調査をやろうということになったんです。

※職業威信…職業に対する一般的な望ましさ、地位の高さを示す意識調査。0～100までの「スコア」として指標化されている。

どうして「ヴィネット調査」という手法を選んだのですか？ そもそもどんな調査手法なのでしょう？



渡辺先生

もともと、協会の公募の条件にウェブでの調査という要件があったので、その条件を強みにできるような調査がないか考えていました。



瀬戸先生

ただ、ウェブ調査でありがちな外的妥当性(※)の問題にどのように応答するのかという議論もあり、その中で上がってきたのがヴィネット調査のような実験アプローチでした。

※外的妥当性…ある集団に対する調査結果を、異なる集団や個人にどれくらい一般化して適応できるかどうかの妥当性。一般化可能性ともいう。



池田先生

ふつうの社会調査では、回答者を無作為に抽出することで調査の信頼性を高めるのですが、ヴィネット調査では、質問票の方の初期条件をランダムに変えて、その無作為化された設問に対して回答者に評価を求めるというやり方をします。それによって、回答者がどんな傾向を持っているのかという測定の信頼性を高めようという考え方なんです。紙の調査票でやろうとすると大変なんですけど、ウェブ調査であれば比較的簡単に実施できます。



瀬戸先生

ウェブ調査は母集団が不明確で、信頼性に疑問が出てしまう弱点があるんです。そうした中でウェブ調査だからこそ可能になる部分がないかということで、そこを逆手に取る形でヴィネット調査を選びました。

もう少し詳しく、ヴィネット調査がどんなことに活用できるのか教えてください。



池田先生

例えば、就活するときの採用側の意識調査に使えます。就活生のエントリーシートには、学歴や専攻分野、現役が浪人か、どんな資格を持っているか、性別や年齢など、様々な属性が含まれています。ある人のエントリーシートが採用担当者に評価されたとき、そのうちの要素がどの程度評価されたのか、採用の結果だけ見ても分かりません。ヴィネット調査では、こうした属性に関わる設問をランダムに振り分けて、どの要素がどれくらい影響しているのかということを評価することが出来ます。



那須さん

ヴィネット調査は、通常の社会調査などよりも一層、狙って確かめたい要素についてきちんと仮説を立ててから調査しないとイケないのですが、そのぶん自分の関心に沿った仮説を検証するための精度の高いデータが得られるんです。



CSI



CSI



CSI



渡辺先生

ヴィネット調査というのは、意識研究との相性が良いんです。例えば、評価対象の属性の違いを独立変数として、他の変数と交絡(※)しないように処置したうえで、物事の評価についての仮説を検証することができます。



池田先生

それに、差別についての意識調査などでは『望ましさバイアス』が問題になることがあって、“こうでなくてはいい”という回答を頭で考えて答えてしまうということが指摘されています。ヴィネット調査は、こういう回答者のバイアスのある程度排除できるメリットもあります。

※交絡…ある結果について2つ以上の要因が考えられ、それぞれの原因がどの程度結果に影響しているか区別できないこと。

学生の皆さんへメッセージをお願いします！



那須さん

新しいアプローチに挑戦しようとするときには、問題意識をかなり明確にする必要があります。なんとなく社会調査をやりたいからテーマを探すというより、何かしら持っている問題関心を自覚的に追及してそれに合った調査方法を考えるという姿勢を養うと、大学院に進んで専門家にならなくても、広く社会人として役に立つ力になるのではないのでしょうか。



瀬戸先生

社会調査の方法論を学ぶことで、実務でデータを正しく解釈する力が身に付きます。意外と勉強したことは使いますよ！



池田先生

どういう会社に入ってもデータを見る、分析するということはあります。いわゆるオフィスの職場でなくても、公務員でも同じです。そういう場面で、単に与えられたグラフを見るだけでなく、その背後にあるデータのバイアスの話だったり、調査対象の集団的特性などの背景情報を知ったうえでグラフの情報を解釈できる。そういう力が身につくと、データに騙されないようになると思うので、方法的な部分でしっかりと考える力はとても重要です。



渡辺先生

今回の共同調査もそうなのですが、自分たちのアイデアを試す機会は意外と身の回りに転がっていたりします。例えば、CSI ではデータ分析のコンペティションを色々紹介しています。ぜひ皆さんも挑戦してみてください！



CSI

CSI では統計分析やデータサイエンスの学外コンペティションを紹介しています。これまで学んできた統計・データ分析のスキルを腕試ししてみませんか？

統計データ分析 コンペティション2024 (独立行政法人統計センター)

エントリー期間：

2024年 5月10日(金)～ 8月 9日(金)

<https://www.nstac.go.jp/statcompe/>



第8回 和歌山県データ利活用 コンペティション (和歌山県)

対象： 高校生・大学生

エントリー期間：

2024年 4月 1日(月)～ 10月19日(木)

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020100/data/competition/2024_8.html



マーケティング分析 コンテスト2024 (野村総合研究所)

対象：年齢、国籍、職業(社会人、学生)不問。

グループでの応募も可能。

エントリー期間：

2024年 5月22日(月)～ 9月30日(月)

<https://www.is.nri.co.jp/contest/2024/>



● 関連情報

CSIではほかにも、社会調査士や統計検定、グローバル教養副専攻のデータサイエンスコースなど、資格や副専攻の取得をサポートしています。下記のQRコードにアクセスしていただくと詳細がご確認いただけます。ご質問がある場合には池袋キャンパス8号館4階にある社会情報教育研究センターの窓口にお気軽にお立ち寄りください。

社会調査士資格とは？



統計検定とは？



グローバル教養副専攻・ データサイエンスコースについて



■ News Letter 第13号 2024年7月発行

- 編集責任者：砂川浩慶（CSIセンター長）
- 編集者：山口和範（統計教育部会）
- 編集・発行：社会情報教育研究センター（CSI）

・ Tel : 03 - 3985 - 4459
 ・ Email : csi-info@rikkyo.ac.jp
 ・ <https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi>
 立教大学 池袋キャンパス 8号館4階

